

「英文法大事典」シリーズ
(全11巻)

書店印

① 英文法と統語論の概観	冊
① 動詞と非定形節, そして動詞を欠いた節	冊
② 補部となる節, 付加部となる節	冊
③ 名詞と名詞句	冊
④ 形容詞と副詞	冊
⑤ 前置詞と前置詞句, そして否定	冊
⑥ 節のタイプと発話力, そして発話の内容	冊
⑦ 関係節と比較構文	冊
⑧ 接続詞と句読法	冊
⑨ 情報構造と照応表現	冊
⑩ 形態論と語形成	冊

お名前

ご住所 〒

TEL.

開拓社

〒113-0023 東京都文京区向丘1-5-2
TEL.03-5842-8900 FAX 03-5842-5560
http://www.kaitakusha.co.jp

「英文法大事典」シリーズ
(全11巻)

2017年
秋より
刊行開始!

【編集委員長】 島山雄二 (東京農工大学)

【監訳者】 藤田耕司 (京都大学) 長谷川信子 (神田外語大学) 竹沢幸一 (筑波大学)

- | | |
|--------------------------------------|---------------------------------------|
| ① 英文法と統語論の概観
本田謙介 ほか (訳) | ⑥ 節のタイプと発話力, そして発話の内容
松本マサミ ほか (訳) |
| ① 動詞と非定形節, そして動詞を欠いた節
谷口一美 ほか (訳) | ⑦ 関係節と比較構文
岩田彩志 ほか (訳) |
| ② 補部となる節, 付加部となる節
木口寛久 ほか (訳) | ⑧ 接続詞と句読法
岸本秀樹 ほか (訳) |
| ③ 名詞と名詞句
寺田寛 ほか (訳) | ⑨ 情報構造と照応表現
保坂道雄 ほか (訳) |
| ④ 形容詞と副詞
田中江扶 ほか (訳) | ⑩ 形態論と語形成
今仁生美 ほか (訳) |
| ⑤ 前置詞と前置詞句, そして否定
縄田裕幸 ほか (訳) | |

開拓社 〒113-0023 東京都文京区向丘1-5-2
TEL.03-5842-8900 FAX 03-5842-5560
http://www.kaitakusha.co.jp



「英文法大事典」
シリーズ
(全11巻)

世界最高峰の英文法書

Rodney Huddleston and Geoffrey K. Pullum (2002)

THE CAMBRIDGE
GRAMMAR
OF THE
ENGLISH
LANGUAGE

Cambridge University Press, Cambridge

2017年
秋より
刊行開始!

待望の日本語翻訳版が、全11巻 (A5判・並製) で登場!
多彩な翻訳者53名でお届けします。ご期待ください!

【編集委員長】

島山雄二 (東京農工大学)

【監訳者】

藤田耕司 (京都大学) 長谷川信子 (神田外語大学) 竹沢幸一 (筑波大学)

開拓社



2017年
秋より
刊行開始!

「英文法大事典」シリーズ

誰が読んでも、そしてどんな立場の人が読んでも、さらに素人ばかりでなくプロが読んでもいろいろ学べる世界最高峰の英文法書、それが *The Cambridge Grammar of the English Language* である。

The Cambridge Grammar of the English Language は生成文法的なバックボーンとツールを用いて書かれている。しかし、あくまで英語という言語の記述がメインでテクニカルな説明はなされていない。生成文法や機能文法、そして認知言語学や主辞駆動句構造文法などすべての現代言語学の文法理論を通してどれだけ英語を記述できるか、そしていかにして英語の真の姿に向き合えるか、そのような目的をもって書かれたものである。

第0巻 英文法と統語論の概観 (原著の1章と2章)

本田謙介 (茨城高専)・深谷修代 (芝浦工業大学)・長野明子 (東北大学)

第1巻 動詞と非定形節,そして動詞を欠いた節 (原著の3章と14章)

谷口一美 (京都大学)・田丸歩実 (京都大学院生)・小川陽香 (京都大学院生)
貝森有祐 (東京大学院生)

第2巻 補部となる節,付加部となる節 (原著の4章と8章)

木口寛久 (宮城学院女子大学)・船越健志 (国立国語研究所)・船越さやか (国立国語研究所)・後藤亘 (東洋大学)・瀧田健介 (明海大学)

第3巻 名詞と名詞句 (原著の5章)

寺田寛 (大阪教育大学)・中川直志 (中京大学)・柳朋宏 (中部大学)
茨木正志郎 (北海道教育大学)

第4巻 形容詞と副詞 (原著の6章)

田中江扶 (信州大学)・中島基樹 (長野県短期大学)・川崎修一 (日本赤十字看護大学)・飯沼好永 (東海大学非常勤)

【編集委員長】 畠山雄二 (東京農工大学)

【監訳者】 藤田耕司 (京都大学) 長谷川信子 (神田外語大学) 竹沢幸一 (筑波大学)

本気で英語を勉強したり、真摯に英語に向き合ったり、さらには英語学を極めようと思っている人にとって避けては通れない本、それが *The Cambridge Grammar of the English Language* である。

第5巻 前置詞と前置詞句,そして否定 (原著の7章と9章)

縄田裕幸 (島根大学)・久米祐介 (藤田保健衛生大学)・松元洋介 (中京大学)
山村崇斗 (筑波大学)

第6巻 節のタイプと発話力,そして発話の内容 (原著の10章と11章)

松本マスミ (大阪教育大学)・梅原大輔 (甲南女子大学)・月足亜由美 (甲南女子大学)・黒川尚彦 (大阪工業大学)・小谷早稚江 (帝塚山大学)

第7巻 関係節と比較構文 (原著の12章と13章)

岩田彩志 (関西大学)・田中秀毅 (摂南大学)・藤川勝也 (富山大学)
辻早代加 (大阪市立大学院生)

第8巻 接続詞と句読法 (原著の15章と20章)

岸本秀樹 (神戸大学)・有働真理子 (兵庫教育大学)・眞野美穂 (鳴門教育大学)
木戸康人 (神戸大学院生)・前田晃寿 (神戸大学院生)

第9巻 情報構造と照応表現 (原著の16章と17章)

保坂道雄 (日本大学)・吉良文孝 (日本大学)・塚本聡 (日本大学)・一條祐哉 (日本大学)・佐藤健児 (日本大学)・小澤賢司 (日本大学)

第10巻 形態論と語形成 (原著の18章と19章)

今仁生美 (名古屋学院大学)・伊藤たかね (東京大学)・川原功司 (名古屋外国語大学)・澤田治 (三重大学)・由本陽子 (大阪大学)

(下線付き著者は各巻責任翻訳者)